



認定NPO法人育て上げネット

参議院自民党勉強会

不安に寄り添う政治のあり方勉強会

育て上げネットが目指すもの

Vision

あるべき社会像

すべての若者が社会的所属を獲得し
「働く」と「働き続ける」を実現できる社会

※社会的所属とは：「安心」を実感し、「挑戦」できる関係性を有する場

Mission

果たすべき使命

若者と社会をつなぐ



事業領域：若者支援事業



事業領域：教育支援事業



事業領域：学習支援事業

まなびタスは、「学び」に4つのCをプラスした
子どもたちのための場所です。



Confidence 子どもたちに自信と肯定感を！

Challenge 子どもたちにたくさんの挑戦を！

Communication 子どもたちにつながる力を！

Chance 子どもたちにたくさんの機会を！

自分らしい人生をイキイキと生きていくためには

自信「自分を信じる力」と、

肯定感「自分はかけがえない存在だと感じること」が
必要不可欠だと言われています。

こうした力を養うためには、

挑戦「失敗してもやりなおしのできるチャレンジ」と
つながる力「困ったときに人に頼れる力」が必要です。

まなびタスは、生きていく力を養うために
子どもたちにたくさんの機会を与える場所です。

子どもたちが希望に出会える場所です。



事業領域：保護者支援事業



労働力調査などによる内訳
15～39歳（全3280万人）

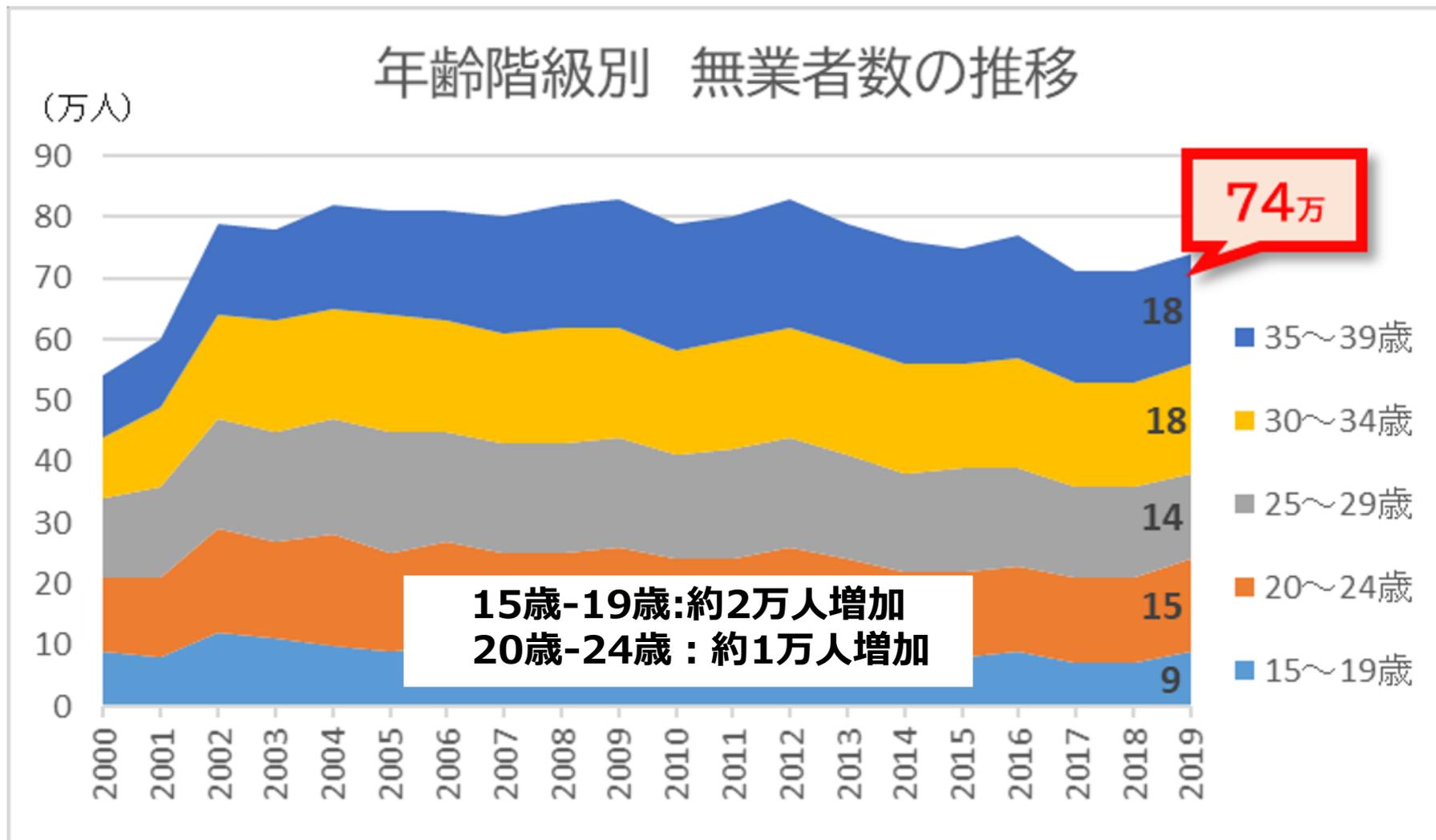
内閣府の定める「若年無業者」

潜在層

労働力人口	就業者	2,329万人	若年無業者	潜在的若年無業者	フリーター(15-34歳) 138万人 家事手伝い 26万人 定時制 8万人 通信制 20万人 中退・不登校 38万人 進路未定 13万人
	非正規雇用	704万人			
	失業者	76万人			
	求職中(求職型)	76万人			
非労働力人口	無業者	(非求職型)	31万人	ニート 74万人 ひきこもり 54万人 自室or家から出られない 6万人	犯罪少年 3万人 生活保護受給 26万人
		(非希望型)	43万人		
		家事手伝い	26万人		
	家事(専業主婦など)	202万人			
	通学	597万人			

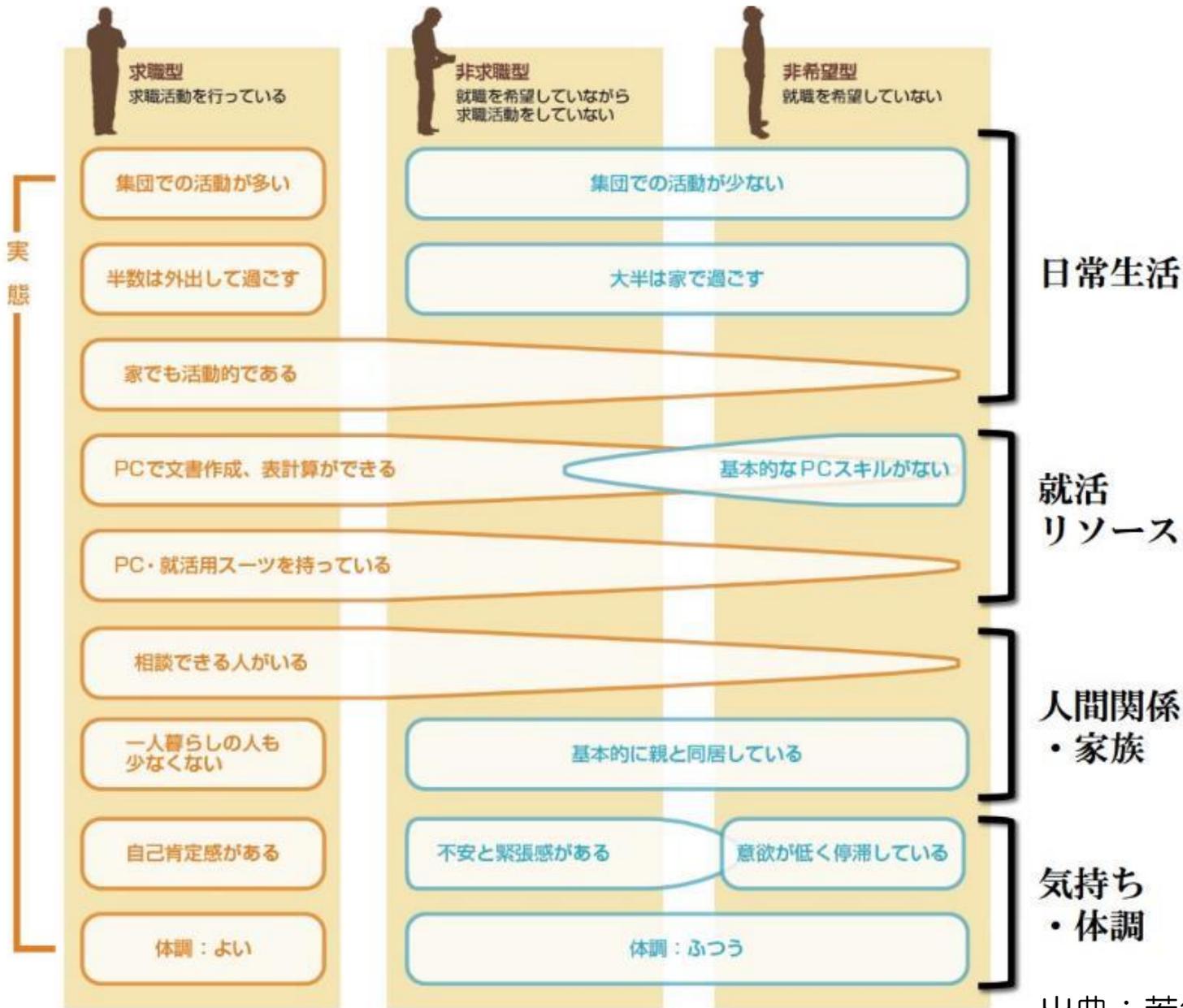
2019年若年無業者数が3万人増加

(71万人→74万人)



考察

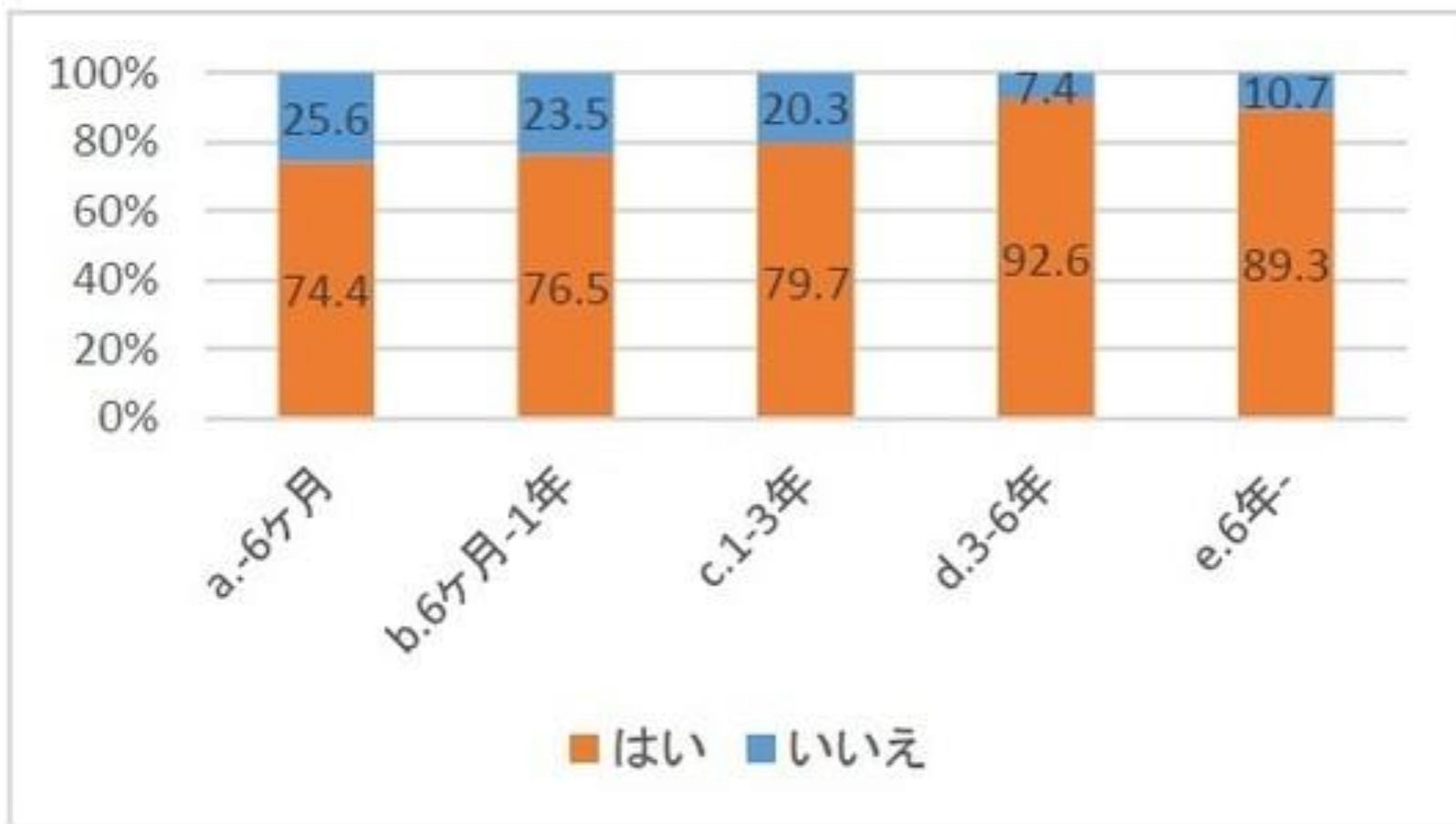
- ▶ 無業状態から動き出せる人が減っている
- ▶ 求職活動（失業者）を止めて、無業状態になる人が増えている
- ▶ 上記2つが15歳-24歳のより若い層で起こっている



出典：若年無業者白書

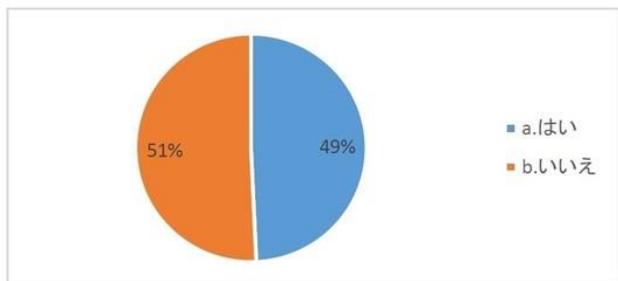
無業になると「どうしたらいいのかわからない」

- 6か月以内でも74.4%
- 3年を超えると90%を超える

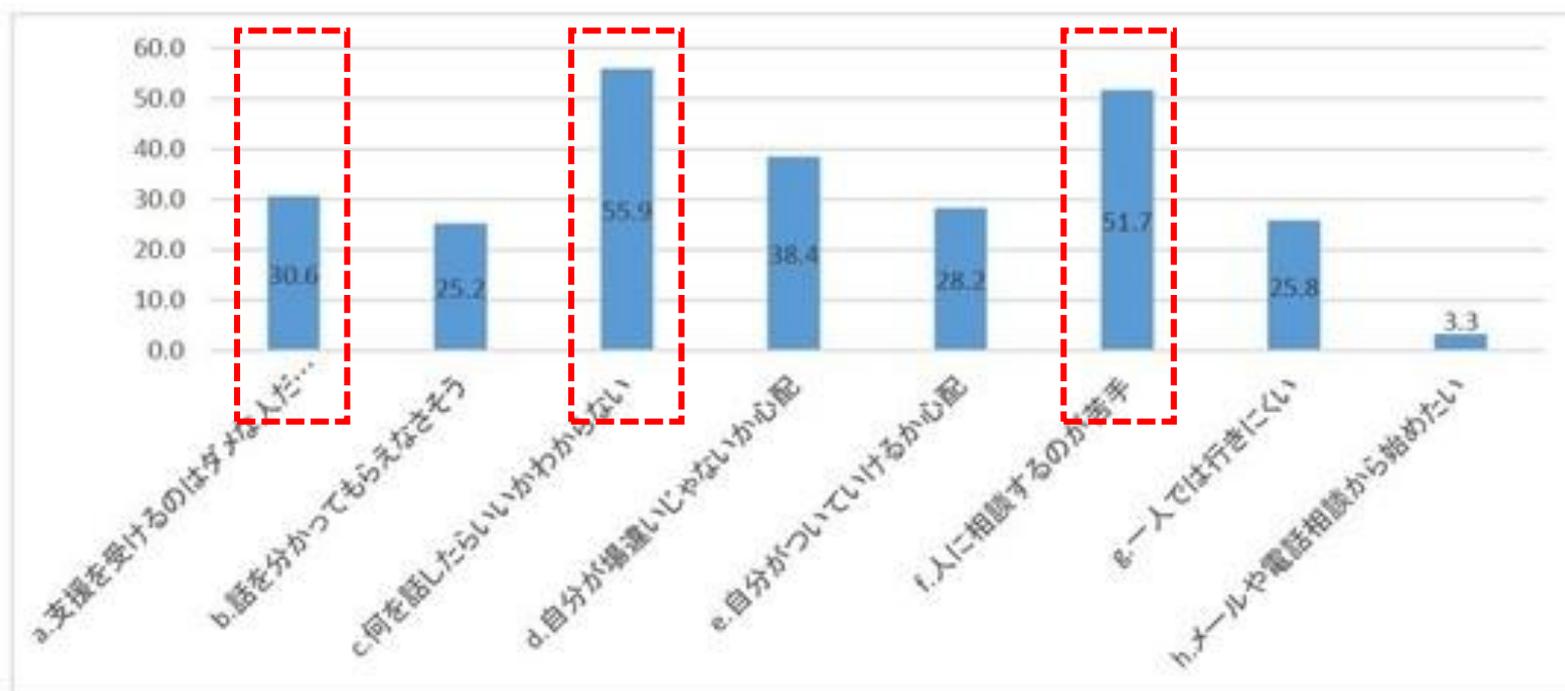


出典：若年無業者白書

若年無業者の半数は支援機関の利用に躊躇

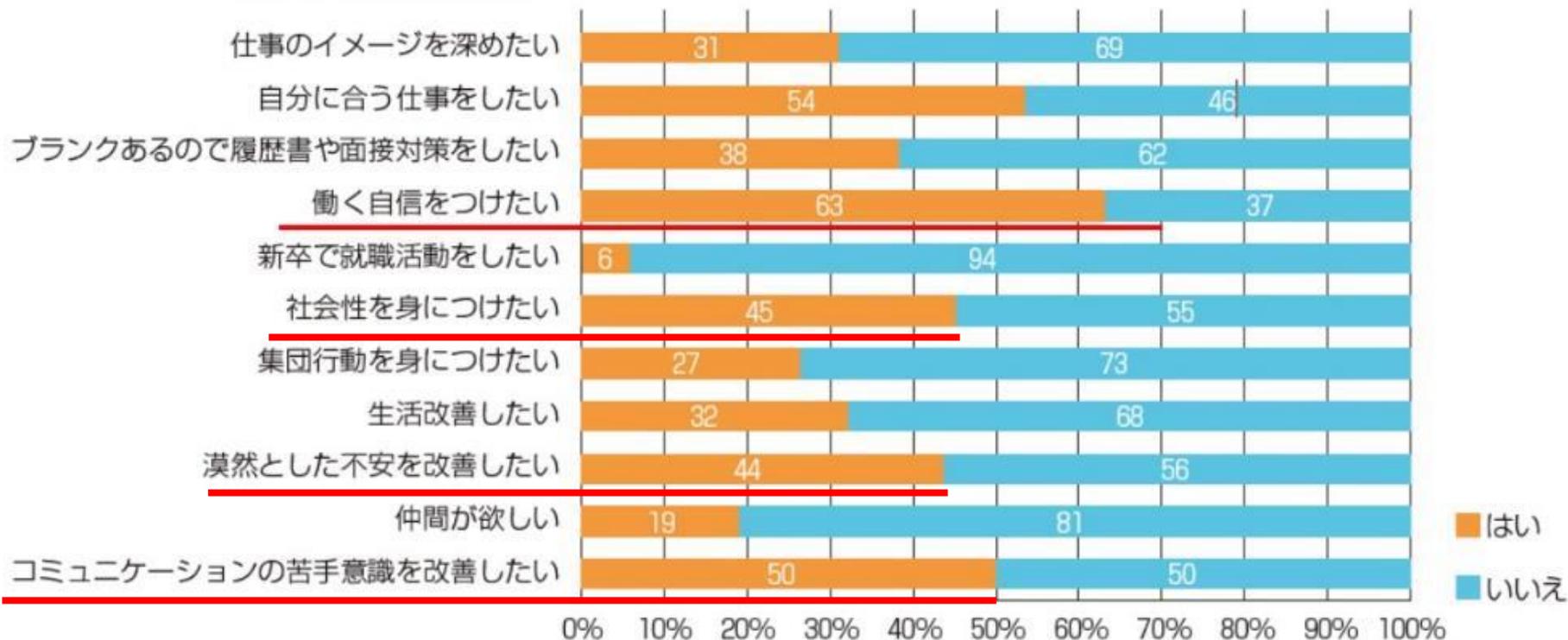


- 何を話したらいいかわからない
- 相談が苦手
- 場違い／ダメな人間



出典：若年無業者白書

非求職型の来所目的



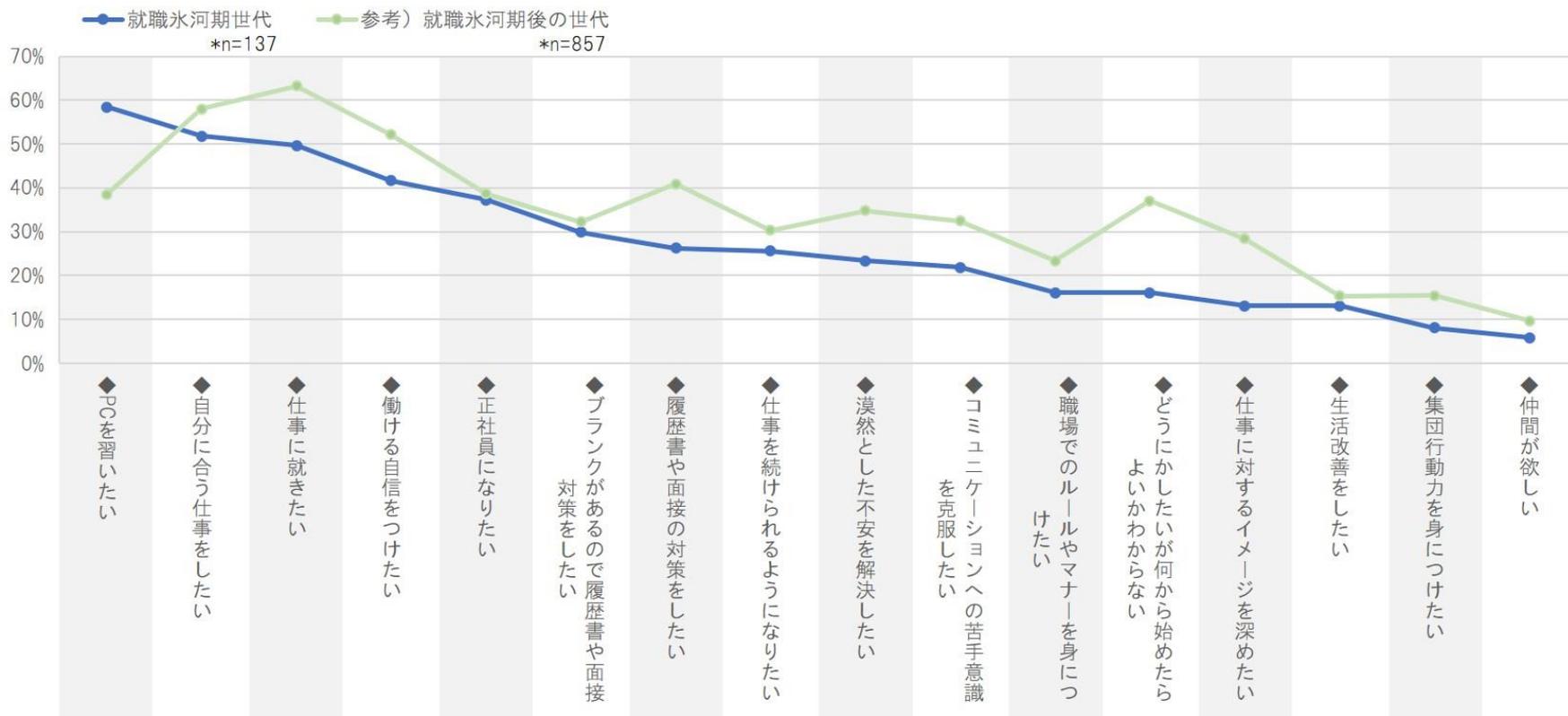
就職支援では満たせないニーズ

出典：若年無業者白書

育て上げネット支援機関利用目的

就職氷河期世代とその他世代の対比データ
(地域若者サポートステーション含む)

支援機関の利用目的



育て上げネット支援機関利用者

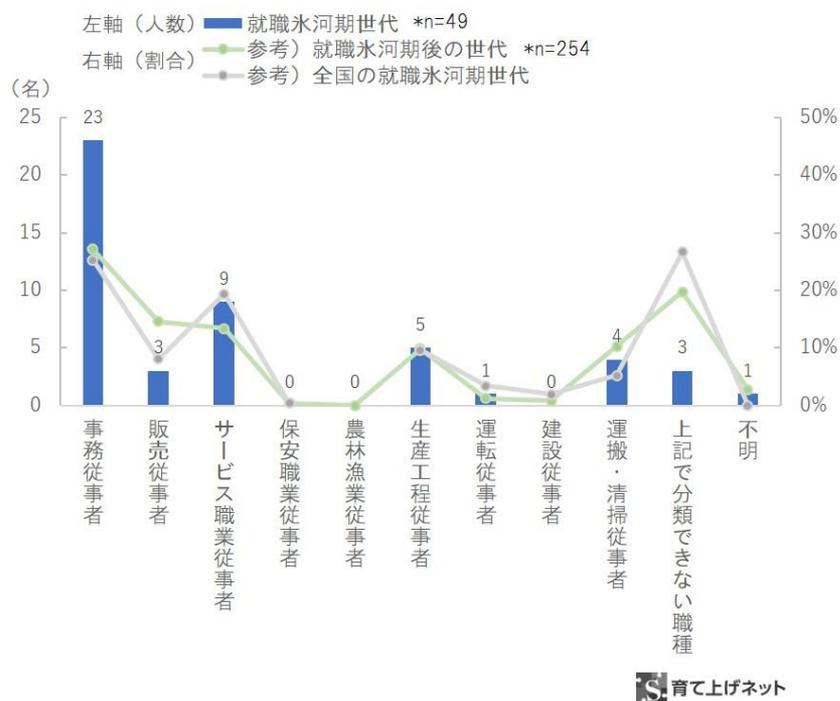
就職先業種/職種

就職氷河期世代とその他世代の対比データ
(地域若者サポートステーション含む)

就職先の業種



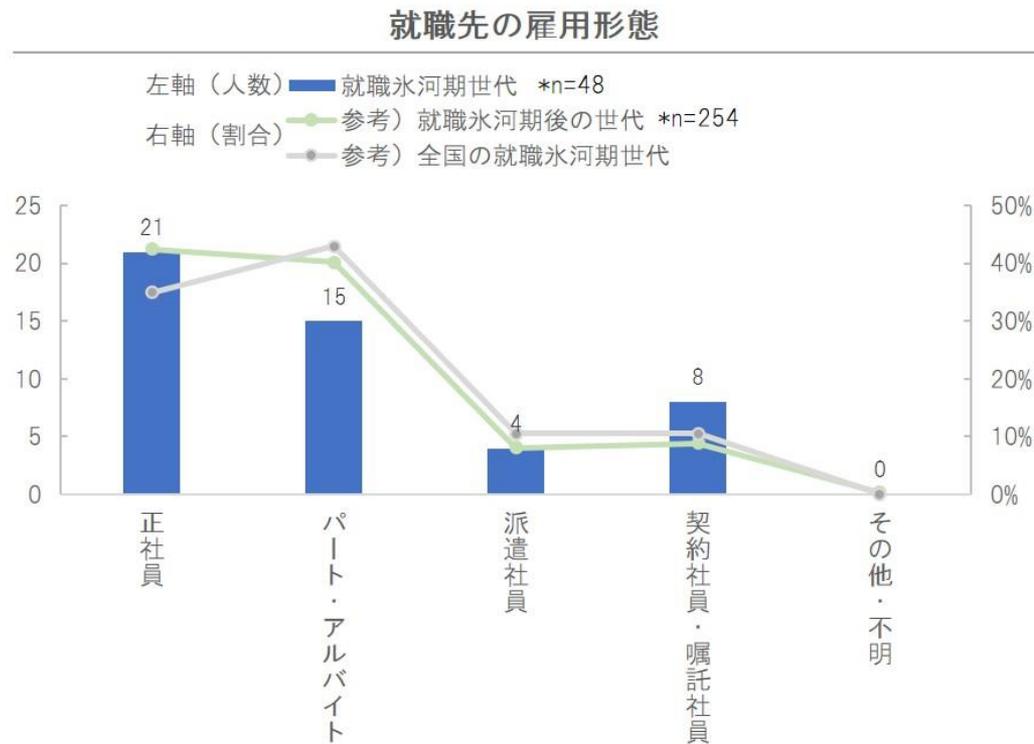
就職先の職種



育て上げネット支援機関利用者

就職先の雇用形態

就職氷河期世代とその他世代の対比データ
(地域若者サポートステーション含む)



就労支援 > 就職支援

就労支援とは：

その人に合わせた「働く」を一緒に考え、伴走する

若年層に対する総合的な
「就労」 支援パッケージの必要性

若年層に対する総合的な「就労」支援パッケージ

特に力を入れるべきポイント

- ▶ リスクアプローチからポピュレーションアプローチへ
 - 学校、少年院、コミュニティ等に対する支援（連携→乗り入れ）
事例）都立秋留台高校×育て上げネット/たちかわ若者サポートステーション
少年院×育て上げネット等（多摩少年院、愛光女子学園、茨城農芸学院等）
- ▶ 就労支援を切り口にした若者支援
 - 自らの「好きなこと」「できること」を小さなチャレンジへ
 - 複数の「仕事」を個人の働くポートフォリオに
- ▶ 住宅付き「就労」支援サービス
 - 自宅/地域を越えて就労サービスを受けたいニーズへの対応

すべての若者が社会的所属を獲得し、 「働く」と「働き続ける」を実現できる社会



若者と社会をつなぐ